



創立153年

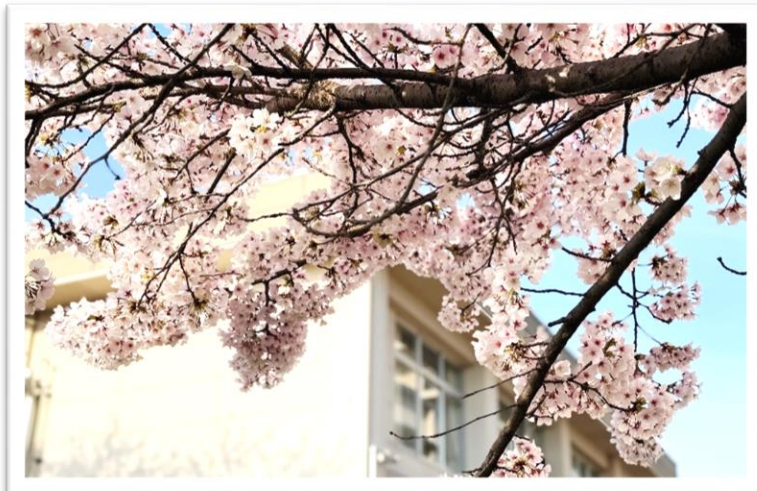
教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和8年 4月号

児童数350名 文責 澤村幸夫



令和8年度スタート



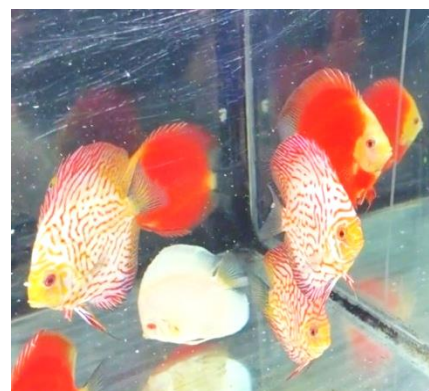
校門前の桜が心や体のわくわく感とともに、前に一步踏み出す背中を押してくれています。期待に胸膨らませながら新しい年度がスタートしました。4月9日、46名の新入生を迎えて入学式を行いました。お家の方々の、温かい愛情に包まれて入学してきた子どもたちは、とても緊張したと思います。これからの小学校での生活をお兄さん、お姉さんとともに、その子らしい生活ができるよう教職員一同、努力して参りたいと思います。

春休み中、湖西線に乗る機会がありました。堅田駅で大学生くらいの女性4人が乗車してきて、空いている席に座りました。旅行にでも出かけるのか、楽しそうな会話をしているようでした。唐崎駅で親子4人が私たちの車両に乗り込みました。小さな女の子と、小学生ぐらいの男の子、そしてお父さん、お母さんのようです。すると、4人組の女性の一人が立ち上がり、「どうぞ座ってください」と4人の親子のために席を譲ってくれたのです。他の3人の女性もにこやかに「どうぞ、どうぞ」という笑顔で立ち上がっていました。その車両が、温かい空気に包まれていたのを、今でも鮮明に覚えています。

話は変わって、まだ春休み中の4月8日に入学式の準備を一生懸命行う6年生の姿がありました。まだ見ぬかわいい後輩たちのために、教室の掃除、飾り付けを行いました。昇降口の掃除、式場の体育館の掃除、イス並べ、花道や壁の飾り付けなどを心を込めて行い、1年生を迎える愛に溢れていました。

新年度が始まるにあたり、子どもたちには、「今年も失敗を恐れず、新しいことに挑戦しよう!」と話をしていますが、今年はそこに「つながり」を付け加えました。「つながる」というのは簡単ではありません。人はほとんど、自分のために、自分中心で物事を考え、行動します。わざわざ自分の時間を、人に譲ることはしたがるものではないです。しかし、ここに紹介した2つの話は、「誰かのために」という行動です。これらの行動はどれも見返りを求めていません。親子のこと、後輩のことを思いやりの行動です。そこがすごいところです。和邇小の全員が、「誰かのために」の行動を毎日やっていたら、ものすごい学校になると思います。愛情に溢れた学校になること間違いなしです。

さあ、令和8年度がスタートしました。家庭と学校とがお互いに理解し合い、協力し合いながら「子どものために」力を出し合っていきたいと思います。地域の皆様には、子どもたちを温かく見守ってくださりありがとうございます。学校と家庭と地域が「つながる」、そんな1年になることを目指していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



学校のディスカス
本文との関連はありません。

今年度の教職員です。よろしくお願いします



- ◇ 校長：澤村 幸夫 ◇ 教頭：**** ◇ 教務主任・子ども支援コーディネーター：****
- ◇ 教務：****(生徒指導)・****(教科専科) ◇ 養護教諭：****・****
- ◇ 事務職員：**** ◇ 非常勤講師：****・****・****
- ◇ 特支アシスタント：****・****・**** ◇ スクールソーシャルワーカー：****
- ◇ スクールカウンセラー：**** ◇ スクールサポートスタッフ：**** ◇ 用務員：****・****
- ◇ 支援員：****・**** ◇ 配膳員：****・**** ◇ 拠点校指導教員：****
- ◇ ALT：**** (個人情報のため、名前を消しています)

学年	担 任	担 当
1 年	A: **** ・ B: ****	****
2 年	A: **** ・ B: ****	
3 年	A: **** ・ B: ****	****
4 年	A: **** ・ B: ****	
5 年	A: **** ・ B: ****	****
6 年	A: **** ・ B: ****	
お 花	A: **** ・ B: **** C: **** ・ D: ****	

チーム担任制・教科担任制

各クラスにはそれぞれ担任を配置しますが、「学年みんなが担任」を合言葉に、学年の子どもたち全員を担任するという意識で関わります。教科指導も担任をはじめ複数の教師が担当します。学年の担任が授業を交換したり、時には担任が入れ替わり、給食や掃除・帰りの会を受け持ったりします。

学校教育目標

**和邇を愛し 心豊かに
友とつながり 学び合う**

学校教育目標とは、学校が育成を目指す資質や能力、学校や地域の実態を踏まえた教育の方針をさします。予測困難な未来を子どもたちがたくましく幸せに生きていくために、知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を身につけていきたい、さらに、課題を解決するに留まらず、自ら課題を見つけ、周囲と関わりながら協働して課題解決していく力を大切にしていきたいと考えています。



- 【 知 】 自ら考え、ねばり強く学び合う子ども
- 【 体 】 生命を尊び、健康でたくましい子ども
- 【 徳 】 思いやりの気持ちを持ち、心を合わせる子ども
- 【 地域 】 生まれ育った和邇を愛し、大切にする子ども

「わたしから考える子」(知的側面)

指示されなくても、「自ら考え実践する子どもを育てる」ことをめざします。

「ここに元気な子」(身体的側面)

「生命を尊び健康でたくましい子どもを育てる」ことをめざします。

「つづけてがんばる子」(情意的側面)

「進んで取り組み、ねばり強くやりとげる子どもを育てる」ことをめざします。

「こころを合わせる子」(社会的側面)

「思いやりの心を持ち、協力・協働できる子どもを育てる」ことをめざします。

新シリーズ 最新!

子どもの たからもの



第1弾 「自己肯定感って？」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

これまで、「自尊感情を高めるために」と「子どものウェルビーイング」「未来への扉」「未来の宝物」というシリーズ

ものを掲載してきましたが、今年度は「子どものたからもの」と名づけました。これまでのバックナンバーは和邇小学校のホームページに掲載してありますので、ぜひご覧ください。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子どもや保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にさせていただければ”という思いで掲載します。

第1弾は「自己肯定感って？」です。自己肯定感とは、「自分は大切な存在だ」「生きる意味がある」「私は私でいいんだ」という気持ちをいいます。これは、人間が生きていく上で、一番大切な気持ちです。子育てにおいても、この自己肯定感を育むことが、何より大切な心の土台になります。

この土台があって初めて、しつけや勉強が身に付いていくのです。

間違えてはいけないのは、この「大切な存在」というのは、条件つきではないということです。「親の言うことをよくきくから」「いい子だから」「勉強ができるから」「能力がある

から」大切にされるのではなく、いいところも悪いところもひっくるめて、かけがえない存在として、大切にされる、そこから育まれる安心感や自分の存在に対する自信を自己肯定感といいます。

保育園や幼稚園のときは、まだまだ幼いな、かわいいな、という感じですが、小学校でさまざまな経験を積むと、1年で見違えるほど大きく成長します。一方で、自我が育ってきて自己主張が出てくると、文句は言う、口答えはするで、素直に言うことを聞かなくなります。実は、この自己主張ができることが、心の成長の証であり、「親の言うことを素直に聞くよい子」だけでは大人になりにくいものです。さらに、この時期は、勉強や宿題、習い事など、やることはどんどん増えていきま

す。しつけや生活習慣は、大人が思うほどまだ身に付いていません。時には、赤ちゃん返りすることもあるとあって、親として、接し方に戸惑うことが多くなります。子育てに悩むことは、どの親も経験する通過点です。

小学校というのは、間もなく親離れしていく子どもに、親が積極的に関われる最後のチャンスかもしれません。子どもがこれから、自分の力で豊かな思春期や青年期に向かっていくために、どういったことが大切かをこのシリーズで一緒に考えていきたいと思えます。

子育てとは、悩みが多く、とても手間ひまのかかる一大事業です。各ご家庭におかれましては、まずは、子どもの話をじっくり聞き、その時、どんな気持ちになったのかを受け止めていただきたいと思います。小さい頃にたっぷり話を聞いてもらった子どもは、信頼する親にどんどん話をするようになります。「今日、学校どうだった？」と尋ねても、「別に」としか返事がないこともあります。あきらめてはいけません。子どもの心のSOSに気づける親子関係を築くことで、日常生活の中の子どもの自己肯定感が育まれていくものだと思います。

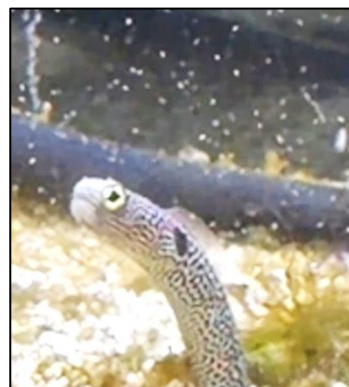
癒しのアクアリウム

ここを
クリック

期間限定 4/9~5/31



学校のラミーノーズテトラ
本文との関連はありません。



学校のチンアナゴ
本文との関連はありません